

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

*上段は前期比在庫増減、中段〔 〕は在庫水準、下段()は在庫水準前期比(%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字()内は誤差率=予想値÷実績

平成30年8月末	平成30年11月末	平成31年2月末見通し	平成31年5月末見通し
-49千トン 〔 2293千トン 〕 (97.9%)	-25千トン 〔 2268千トン 〕 (98.9%)	+2千トン 〔 2270千トン 〕 (100.1%)	+68千トン 〔 2338千トン 〕 (103.0%)
2318千トン(101.1)	2270千トン(100.1)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成30年9月末	平成30年12月末	平成31年3月末見通し	平成31年6月末見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は88,700円で前年比+9,800円、前期比では+1,500円。8月猛暑の熱中症対策での材料遅れ、9月は台風による入荷遅れ等の影響で仕入量が著減し、大幅な販売減となった。需要自体は建築中心に堅調だが、人手不足や運送問題で工期遅れが生じた。市況はなんとか強含み横這いを維持した。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は90,300円で前年比+8,100円、前期比では+1,600円。10月はどの品種も秋需のピークで9月販売減の反動もあり、予想以上の販売増に繋がった。11月も引続き堅調に推移しており、前月比稼働日減の販売減に留まった。12月は冬場に入り、秋需の勢いは落ち着き、稼働日数減、ハイテンションボルト不足による工期遅れで販売量は著減した。	メーカーの相次ぐ設備トラブルで出荷遅れが生じ、需給のタイト化を懸念していた。しかし、建築需要は堅調なものハイテンションボルトやコラム特に大径角の入手難により中小物件の工期遅れが生じ、予想以上に荷動きが落ちている。全体的に需給はタイトどころか逆に緩みつつある。これ以上、需給が緩むと市況にも悪影響が多少出てくるだろう。	年度はじめで期待しているが、GW10連休により、稼働日数減で不安視する企業もある。また、資金繰りなどで信用不安も出てくるだろう。コラムの不足は徐々に改善されつつあるが、大径角の入手難は続くだろう。またハイテンションボルトの入手難が慢性化しているため、中小建築物はあるものの延期や中止を懸念している。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

1月の仕入量は185,827トン前月比-4.2%、前年同月比+2.6%、販売量は175,222トン前月比-8.3%、前年同月比-0.5%。前月比では仕入、販売とも減少、前年同月比は仕入増、販売は微減しました。一方、在庫量は233,381トン前月比+4.8%、前年同月比-5.2%。在庫は前月比では増加、前年同月比は減少しました。在庫率は133.1ポイントと上昇。需要は堅調の様相ですが、1月売上数量は前年比ほぼ横這いに留まりました。在庫は増加し、需給は多少緩んでいる状況です。

4. 大阪、愛知の動向

(大阪) 1月～3月はどちらかというと、不需要期にあたり、動きも鈍い。建築は堅調だが、ハイテンションボルトの調達難から、延期、中止といった物件も出ており、荷動きは落ち着いてきている。新年度入りとともに、荷動きの盛り上がり期待したいが、ハイテンションボルトの不足問題が深刻で、新規物件にも影響を与えかねず、先行きが懸念される。S造からRC造へ設計変更といった動きも期待されるが、半年以上先の話になると思われることから、先行きは不透明。GWの連休、また6月はG20があるため第4週目はかなり商売に影響が出てくることを考え、販売数量は望めないであろう。

(愛知) 1月、2月の販売量は低調。昨年2月がボトムであったが、今年2月は前年比ほぼ横這い。板系、パイプ系は前年比マイナスと苦戦が続いている。例年3月は年度末のため盛り返しがあるのだが、今年3月の繁忙感は今のところまるでない。自動車生産は旺盛で工作機械に凸凹間はあるものの、産業機械の需要は底堅い。配電盤も好調。ボルト不足により中小案件の計画はあるもののファブが受注できない状況が続いている。そのため今まで需要は引張り続けてきた鉄骨が落ちこんでいる。2月は例年不需要期だからという問題ではない。コラムの不足感は解消されたが、ボルト問題を解決しないとこの状態は4月、5月と続く可能性がある。